



明るく豊かな市民生活を

ことしの予算はこう使われる

毎月として保存してください
いつか役に立つことがあります。

総額六億八千万円

3つの柱
健全財政の維持
投資的経費の増加
行政の向上と効率化

ことしの予算の組み方

三十六年度の留萌市予算は、総額六億七千九百五十四万余円（うち一般会計予算は五億三百六十九万余円）と決まりました。

留萌市の財政は、約一億二千万円にのぼる赤字を出し、財政上危機にひんしていたのを、昭和二十九年から財政再建計画をたて年々その健全化に努力してきましたが、その努力が実を結び、あと一年で完全解消できるとなりました。

こうした中で、本年度の市予算は、「健全財政をもち続けながら、投資的経費の大きな増加によつて積極的な市政を進め、あわせて行政水準の向上と効率化をはかる」との三大基本方針によつて編成されています。

とくに、投資的経費の大きな増加は、都市計画事業費八百八十七万七千円、校舎建築費二千二百八十八万五千円、し尿消化槽建設費千七百七十七万七千円、庁舎建築費四千八百九十九万七千円を始めとする多くの意欲的なものがあります。

これは、将来の留萌市は

留萌港を中心とした臨海工業都市として進むべきであるという一大構想によるものです。

昨年は、近隣町村との経済提携を叫び、まず増毛、小平を含めた工業立地条件調査が行われましたが、本年は、この調査をもとにして、さらに経済長期計画をつくり昭和四十五年の市経済の望ましい姿に向つて、一貫した経済政策を積極的に行います。

この経済長期計画は、国の所得倍増計画や、北海道総合開発計画とあわせ、市民、民間企業、市の果たす役割に、目標と手がかりをあたえ、後進性をなくし、市民の所得水準を引上げようというものです。

市政に計画性をもたせることも大切ですが、これが忠実に実現されることはさらに重要で

このため、「教うてはあたる式」の市政ではなく、留萌市がいまつき破らねばならない悪条件を計画的に着実に克服して理想郷の建設を、今後ともたゆまず進めて行きます。